



被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ
東北こそだてレター (被災地の今…)

2015/11/17 配信 vol.35

～ 様々な立場の人々が支える母子支援のこれから ～

◆ 支援実績 (2014/10/31 現在)

<支援母子数>

- ・2015年9～10月計 263組
- ・プロジェクト開始より累計 20,982組 (2012/7～2015/10)

<活動場所>

- ・岩手 (大船渡、陸前高田、花巻、釜石、大槌、遠野、宮古、久慈)
- ・宮城 (石巻、東松島、女川、気仙沼、亶理、名取、仙台)
- ・福島 (いわき、相馬、南相馬)
- ・福島 (伊達、二本松、須賀川、白河、郡山、猪苗代町)
- ・新潟 (長岡)
- ・埼玉 (川越)・神奈川 (横浜)・東京 (中野)

<活動内容>

育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビ体操／
ママのリフレッシュ体操／親子ピクス／仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。 一般社団法人ジェスパールです。

11月13日にパリで発生した同時多発テロ。多くの方が亡くなる大変な事態になってしまいました。被害に遭われた方のご冥福をお祈りしたいと思います。2001年のニューヨーク同時多発テロを思い起こさせるテロですが、世界が悪い方向に動いてしまうことがないように祈るのみです。

さて、前回のメルマガで支援をお願いした「妊娠に悩む女性のための相談支援窓口」のためのクラウドファンディングですが、皆様のおかげで無事プロジェクトが終了しました。このお礼について、また代表宗が参加したイベント「社会を変えるデザインをしよう！」について宗が述べさせていただきます。

加えて、これまでジェスパールが支援してきた東北の団体の近況についてご紹介します。

以前から長期的に続く活動と、新たに開始した活動。ジェスパールは母子支援の根本を忘れず今後とも活動を続けていきます。

被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。

◆ 「望まない妊娠に悩む女性の相談窓口」を東京で立ち上げたい！

クラウドファンディング READYFOR?達成のお知らせ (ジェスパール代表 宗祥子)

http://www.sumitomolife.co.jp/about/csr/community/mirai_child/child/2014/

先日皆様からご協力いただきました、上記の取り組みはおかげさまで目標金額 123%を達成し成功いたしました。

皆様のご協力に心から感謝いたします。

ここで寄せられた資金をもとに以下の通り、12月1日より相談業務を開始する予定です。

相談電話の番号は 03-4285-9870 です。

相談時間は毎日 16時から 24時までとなります。

できるだけ多くの方に知っていただきたいので、皆様の中でお心当たりの部署や関連する業務を担当する方がいらっしゃいましたら、是非お知らせいただくようお願いいたします。

またこの事業は、「にんしん SOS 東京」電話相談窓口として、近日中にジェスパールから独立し、支援団体の1つとなる予定です。

皆さんからいただいた資金は、電話実機購入費、回線設置などの初期設備費、通信費、HP 作成費、チラシ・カードの製作・印刷費、名刺製作・印刷費、会議費、相談票入力フォーム構築費、などに使用する予定です。

人件費が無いため、3月31日まではボランティアにより運営する予定です、その後は助成金の申請を行っており、助成金が認められることを願っています。



◆◇開設の背景

このとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）で有名な熊本の慈恵会病院には年間 4000 件超の相談が寄せられますが、そのうちの 29%が東京を中心とした関東からの相談だそうです。また、三重など他県の相談窓口にも、東京からの相談が多く寄せられている現状があります。

東京都でも、妊娠相談ほっとライン（月・水・金は 10 時から 16 時まで、火・木・土は 16 から 22 時まで）が始められていますが、相談者が学校や職場にいる時間が相談時間に含まれており、アクセスができる日や時間が限られていること、相談内容に応じて関係機関を紹介するところで留まっており、相談者が改めてその相談機関にアクセスする必要があるため、そこから先に相談が続いていない現状があります。

こうした背景をふまえて、相談者にとって本当に必要な相談支援窓口を東京に作ろう！という思いで集まった有志の助産師と社会福祉士 7 名で 2015 年 6 月より準備を進めています。

◆◇事業内容

1 電話相談事業

- ①相談員による電話相談：365 日 16 時から 24 時まで
- ②相談者の話を傾聴し、必要な情報を提供する
- ③相談者の電話は何度でも受け、継続して相談にのる

2 同行支援事業

- ①電話相談の結果、必要な場合は面談や同行支援を実施し、継続的な支援を行う。
- ②連携できる団体や関係機関の発掘および関係構築
- ③他県の妊娠 SOS との連携

3 情報発信事業

- ①HP やその他の情報発信手段により、妊娠・出産に関する情報提供をしながら、思いがけない妊娠の相談窓口「にんしん SOS 東京」の存在を広める
- ②問題を抱えた対象者に知ってもらうためカードを作成し、ドラッグストア、コンビニエンスストア、カラオケボックス等に、配布設置を依頼する
- ③若年層に向けて、相談がしやすくなるアプリを制作し、ライン@等を利用して拡散する
- ④思いがけない妊娠をした方の背景やその方に必要とされる支援について、社会へ向けて提言・発信する
- ⑤思いがけない妊娠をした方向けの相談窓口「にんしん SOS 東京」が東京にも開設されたことを掲載してもらえよう、メディア等にも働きかけを行う

4 相談員育成事業

- ①コミュニケーション等、相談員として必要なスキルを身につけるためのスキルアップ研修やケース検討会を行う
- ②多様な問題に幅広く対応できる相談員を養成するため、社会福祉士の資格取得を目指し、将来増員する相談員への指導的役割も果たす要員とする

5 講座事業

- ①将来資金的に自立した活動ができるよう、リプロダクティブ・ヘルス・ライツに関する講座など、講座を開発する

以上のような活動を計画しています。

今後もこの活動の進展につき、皆様にご報告するとともに、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。



◆ **【WIT<http://worldintohoku.org/>×GIFTHOPE <http://gifthope.jp/>イベント】**
～社会を変えるデザインをしよう！～の支援先にジェスペールが選ばれました。（ジェスペール代表 宗祥子）

11月14日(土)に、被災地の妊婦さん達を支えるための、デザインハッカソン※が、NTTドコモベンチャーズイベントスペース（東京・赤坂）で開催され、代表の宗祥子と、岩手の復興支援「まんまる」代表佐藤美代子がトークセッションに参加しました。

社会貢献に携わりたい方、東北の復興支援に興味がある方、デザインをしたい方、アイデアを考えたい方、色々な参加者と交流したい方など、社会人、学生さん問わずに広く参加してくださいました。みんなで Social Good を考えましょう！！

【イベント詳細】

当日は、トークセッションとデザインハッカソンの2部構成。

①東北を中心に活動する3団体によるトークセッション

東北の社会起業家を支援する World in Tohoku、チャリティ T シャツのデザイン で団体を支援する GIFTHOPE、被災地の妊婦さんを支えるジェスペール、の3団体の代表によるトークセッションで、被災地における社会的企業の現状を共有しました。

②T シャツデザインハッカソン

被災地の妊婦さんを支える活動を続けている「ジェスペール」のチャリティ T シャツデザインワークショップを行い、被災地の妊婦支援の現状と課題を共有しました。

参加者がチームとなり（5名程度/チーム）T シャツのデザインと販売戦略を考え、短時間にもかかわらず素晴らしいデザインが作成されました。

作成されたデザインはチャリティ T シャツとして、実際に来年1月に GIFTHOPE の WEB で限定発売されます！！

イベントが開催されたのは、港区赤坂にあるアーク森ビル 31 階ドコモベンチャーズビル、まるでテレビのトークショーに出て来るような素晴らしい都会的なスペースでした。

多くの異業種の方々から、今後の社会貢献の在り方につきご意見を交換させていただき、代表宗も、まんまる代表佐藤美代子も大変刺激を受けました。

佐藤美代子からは震災後4・5年経ってやっと心の内を語れるようになった若い母親たちの現状が語られ、参加者の胸をうちました。

※ハッカソン・・・ソフトウェア開発者が、一定期間集中的にプログラムの開発やサービスの考案などの共同作業を行い、その技能やアイデアを競う催し（「コトバンク」より引用）

◆ **こそだてシップから、ともこ助産院への車が寄付されました（ジェスペール広報 桑原）**

9月に発生した台風18号により、宮城県内で多くの方々被災されました。仙台にある、ともこ助産院でも浸水被害があり、さらに車3台が廃車となってしまいました。

その連絡を受け、代表の宗はすぐに寄付を決め、東京都助産師会でも募金を開始しました。

さらに、ジェスペールの支援先のひとつである、こそだてシップで以前から車を処分する話があった受け、こそだてシップ代表の伊藤助産師に車を融通できないか相談を持ち掛けました。



被災時に車を使えないという苦勞がよくわかる者同士、直接的なつながりはなかったものの、こそだてシップの伊藤助産師から、ともこ助産院へ、車一台の寄付が決まりました。

その貴重な1台の車が先日届いたとのことで、ともこ助産院からお礼のメールをいただきました。

ジェスペールが繋ぐ『助産師ネットワーク』は、震災後4年経った今も継続して活用されています。

◆◇とも子助産院 伊藤朋子助産師からのメール

ジェスペールの皆様へ

9月28日に、こそだてシップの伊藤言様が、助産院に軽自動車を届けに来ていただきました。おかげさまでとても助かりました。田舎は足がないと何もできません。ありがとうございます。車をいただけるなんて夢みたいです。

ジェスペールより、素早く沢山のお見舞金もちょうだいし、本当に感謝です。写真は廃車になった3台の車と、いただいた1台の写真（こそだてシップの伊藤様と）、水害当日の写真です。ご覧ください。

トイレの修理と建具類の効果がすみ、大体の室内の清掃は終わりました。今後は、エレベーターや冷暖房の装置の交換、壁紙の張り替えと、カーテンの交換の予定です。

毎日大工さんや業者さんが出入りしていて、なかなか落ち着きません。濡れたカルテの乾燥と修復作業に追われています。見た目はきれいになったのですが、どうしても建物についた臭いが取れず、壁や床の湿り気が抜けるまでには、相当時間がかかりそうです。

気が滅入りますが、ご近所では、敷地がえぐられて、建物全壊で後片付けも手付かずのままのお宅も多い中、幸運な方だと思います。

今後とも見守ってください。
お礼まで。

伊藤朋子
とも子助産院



◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスペールの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation/>

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスペールメンバーの力になります。ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。



発行者：一般社団法人ジェスペール

公式ホームページ：<http://tohokumama.org/>
Twitter：<https://twitter.com/tohokumama>

お問い合わせ先：info@tohokumama.org
Facebook：<http://www.facebook.com/tohokumama>

